

# 喜怒哀楽

「喜怒哀楽」は、文芸を楽しむ方々の活力の源を目指し(株)ミューズ・コーポレーション 喜怒哀楽書房が隔月発行している情報誌です。

## CONTENTS

- 笑顔礼讃西東  
知音俳句会(東京都・中央区) 2~3
- 中原操雪(東京都・江東区) 4
- 詠み人スクランブル  
《集めているものはありますか?それは何ですか?》10~11
- 新潟ぶらり/安吾が将棋にみたもの 12
- 詠み人の『リレーエッセイ』歌人 小津夜景 16



▲若松英輔氏の著書

### こころに響く言葉

新潟県糸魚川市出身の批評家・随筆家若松英輔氏の著書からこころに響いた言葉を抜粋してご紹介します。

彼が教えてくれたのは、生きるとは何かということだった。人生の道をどう歩くのかではなく、歩くとはどういう営みであるかを教えてくれた。(中略)人生の意味は、生きてみなくては分からない。素朴なことだが、私たちはしばしば、このことを忘れ、頭だけで考え、ときに絶望してはいないだろうか。——『悲しみの秘義』より

### ●若松英輔

1968年生まれ、慶應義塾大学文学部仏文科卒業。  
2007年『越知保夫とその時代 求道の文学』にて第14回『田中新一文学新人賞評論部門』当選。  
2016年『叢知の詩学 小林秀雄と井筒俊彦』にて第2回西脇順三郎学術賞を受賞。

### 温古知新 ⑤

## 「菜根譚」22

本年も、「菜根譚」をよろしくお願いいたします。二〇一八年の「菜根譚」は80項から！

耳目見聞は外賊為り。情欲意識は内賊たり。只だ是れ主人翁にて、惺々不昧にして中堂に独坐せば、賊便ち化して家人と為らん。

(見聞きする刺激は外からの賊である。欲望や浅考は、内なる賊である。しかし、本来ある心を真ん中に座って監視すれば、内外の賊も家族のような存在となるのだ。)

自分本来の心がしっかりとてさえば、良き人生となる。ということでしょうか。

未だ就らざるの功を図るは、已に成るの業を保つに如かず。既往の失を悔ゆるは、将来の非を防ぐに如かず。

(まだ結果が出ていない仕事を考えることは、現在の仕事を継続することには及ばない。また、既に明らかになった損失を後悔することは、未来の損失を予防することに及ばない。) 今をしっかりと見つめて、未来の損失を予防して先へ進んでいきましょう。

気象は高曠なるを要するも、而して疎狂なる

べからず。心思は縝密なるを要するも、而して瑣屑なるべからず。趣味は冲淡なるを要するも、而して偏枯なるべからず。操守は厳明を要するも、而して激烈なるべからず。

(意識は高くあるべきだが、世の中に疎くはいけない。心使いは慎重を要するが、細かすぎるのは良くない。趣味はのめり込み過ぎないのが良く、偏りすぎてはいけない。意志は強く明確であるべきだが、強烈すぎではない。)

志は高く、そこへ向かう過程では柔軟に。偏り過ぎは良くないですね。

風、疎竹に来たるも、風過ぎて竹に声を留めず。雁、寒潭を渡るも、雁去りて潭に影を留めず。故に、君子は事来たりて、心に始めて現われ、事去りて心随って空し。

(風はまばらな竹林に吹いても、過ぎ去った後は音もしない。雁が川を飛び越えて飛んでいけば川面に影を落とすが、通り過ぎれば影はなくなる。ゆえに、君子の心も何か起れば対応し、それが過ぎ去れば元の静けさに戻るのだ。)

一瞬一瞬を大事に、けれど、過ぎ去った後はそのことにとらわれ過ぎずにいたいものですね。

年も改まりました。今年も目標高く、しかしこだわり過ぎずにいきたいものですね！

(古川久美子)

# 知音俳句会京橋教室

## 代表行方克巳様

(東京都・中央区)

1月18日(木)、京橋区民館で開催された知音俳句会京橋教室にお邪魔しました。知音は行方克巳氏、西村和子氏2人の代表制をとり、京橋教室は行方代表が月に3回、それも昼・夜の部とダブルヘッダーで違うメンバーを計6回直接指導されている。

この句会は8句出しで、メンバーの互選と並行して、代表が各人の句を添削し講評をするというもの。披露に続いて代表が一人ずつ講評する。

月光の名残の霜を踏んでゐる 庸子  
この句は人気があったね。月光と霜の取り合わせは中国の漢詩にある。

「牀前月光を見る 疑うらくは是 地上の霜かと 頭を挙げて 山月を望み頭を低れて 故郷を思う」(皆さんより嘆声が上がります。代表の前職は国語教師。慶應義塾中等部で30年以上にわたる教鞭をとっていた)。牀前はベッドサイドのこと。この詩がベースにある



▲季節ごとに色を変えるカラフルな御髪の行方代表

と思う、いい句だね。

松過ぎの二階へ運ぶ輪島塗 重光

正月が終わわり、使わなくなった食器を2階に仕舞ったこと。これ、蔵へ運ぶとか言えはいい。そうしたらさすが重光さんってことになるじゃない(笑)。2階じゃつまらない。

年の市股火鉢して客を待ち 飛雄

「年の市股火鉢して」で、もう句ができています。客を待っているに決まっていますから。下五は夕暮れになってきたとか、違う言葉にするとおもしろくなる。「客を待ち」では説明になる。

寒に入る金糸雀色の新車来る 周子

湘南ガールで派手だと思つたら、こんな色の車買ったの!? 金糸雀はダメ。新車でしょ? だったらカタカナでカナリア色、そして来るではなく来て。「寒に入るカナリア色の新車来て」。

孫ほどの歳の巫女より破魔矢受く 八坂

自分と同じくらい歳の巫女からもらつたらビックリでしょう(笑)。皆さん、笑い過ぎ。なぜ作者は「孫ほどの」と言つたか、うちの孫くらいの歳だなーと思つたから。だからうれしかった。そこまで話を聞いてから笑うように(笑)。

朝のバス膏葉匂ひ春近し 京佳

これだと、プチプチという感じで切れる。「春近し膏葉匂ふ朝のバス」ですんなりいく。

人生に旅心あり冬の旅 節子

「人生に旅心あり」はおかしい。人生そのものに旅がある、そして自分は今、冬の旅をしているということなら「人生に旅あり我の冬の旅」。いいじゃ



▲月刊「知音」花鳥諷詠の伝統に根ざした個性の発揮をめざす

ない、ちよつとかつこよく直しすぎかな(笑)。

セーターの後ろ前なり駆け出す子 とよき

セーターを着られるようになった子が、早く遊びたくて駆け出したが、見ると後ろ前になつていたということ。これ「子」はいらない。子どもに決まっている。「おじいちゃん、後ろ前よ」なんて言つたら大変、家を出たら戻つてこない(笑)。「セーターの後ろ前なり駆け出せる」。

一品を持ち寄り昼の女正月 妙子

妙子さん、下五は何と読んだ? 最近歳時記でも下句をほとんどが「めしようがつ」と読んでいるが、正しくは「おんしょうがつ」。なるべく女正月を上五にもつてくるように努力する。じゃあどうするか。「女正月一品ずつを持ち寄りて」。昼はいらない。朝からはしないし、夜は女子会とか言つて飲んだくれてるもの(笑)。

女正月もそうだが、一番気になるのは当たり前のように使われている「言うなれば」という言葉。これは「もし言うとしたら」の意なので未然形の「言うならば」が正しい。

初鏡ひたひが父に似てきたる 瑠璃

瑠璃さんの句? 女性の句なら少し上品に。「ひたひが父に」だと、禿げ

あがつている感じがする(笑)。「初鏡ひたひのあたり父に似て」。

シャンパン抜く音に始まり年の饗 瑠璃

「シャンパン抜く」というと偉そうに聞こえる。それがさらつと詠めないとシャンパンは抜いてほしくない。今年でもうシャンパンの句は3句目。私なんて独り居だから、シャンパン抜けないの、誰も来ないから(笑)。

マフラー暖かさう膝小僧寒さう いづみ

字数はあつていないが「マフラー暖かさう膝小僧寒さうに」とすると、まとまるけど急におもしろくなる。破調のおもしろさのある句。

うしみつの満月ながむ二日かな いづみ

ながむ、はよくない。じゃあどしたらい? 。

メンバー:「見上げ」、「あおぐ」。

なんでみんな行動にしちゃうの。メンバー:「上にあるから。じゃあ「なりし」、「浴びる」。

「浴びる!」もつとだめ(笑)。「うしみつの満月ありし二日かな」。ふと見上げたところに満月があった、ということ。

神棚へ破魔矢鈴の音こぼしつ 和音

和音さんは小柄だから、神棚の上に飾るとき精一杯手を上げてちりんちりんと鳴つたということね。鈴というのだいたい鈴の音とするんだけど、これは音の方がいい。「神棚へ破魔矢の鈴の音こぼす」。

飛び切りの笑顔返され社会鍋 呼瞳

日本人は少ない金額だと恥ずかしいし、多いのは出しにくいし、それで躊躇して通り過ぎてしまう人は多いと思う。いくらあげたの? 。

作者：100円くらい。あげた何倍もの笑顔が返ってきた(笑)。

「社会鍋横顔ばかり通るなり」という岡本眸さんの句があるけど、いいよね。みんな素通りしちゃうってことがよくわかる。

おでん酒あの頃の謎解けぬまま 京子

これ謎の句ですね(笑)。どうしたんだらう、何これ。

作者：高校の文化祭の劇、いつの間にか配役が決まっていたねという話をしていた。

「解けぬまま」が気になった。「おでん酒あの頃の謎まだ解けぬ」の方がいい。

柚子湯して術後六年恙無く 甲代

もう6年経ったの。大丈夫ですね。甲代さんの俳句は実に性格が出て、真面目な句柄。甲代さんも周子さんも大



学の同級生なので、一緒に卒業アルバムに載っている。でも当時はお金がなくてアルバムが買えなかった。同級生同士で結婚したのがいて、ご主人が亡くなった。だから、アルバムをもらったの(笑)。そんなことはどうでもいいんだけど。

積ん読の父の書斎のすきま風 奈津子  
そのままになってる亡き父の書斎。たまたまそこに入ったら隙間風がすーっと。懐かしさと寂しさが感じられる。

初鴉東の窓に鳴きにけり ちづこ  
烏は縁起が悪いとか評判がよくないが、元旦に鳴く鴉は初鴉といって縁起がいい。「東の野に炎の立っ見えてかへり見すれば月傾きぬ」という人麻呂の歌があるが、東というとおめでたい感じが出る。原句はさっぱりしてああそうですかかっていう感じだが「東の窓に鳴きけり初鴉」とすると少しかっこよくなる。

搗く朝の白に張りたる薄氷 章代  
この言い方は無理がある。「餅搗きの明日の白に薄氷」。

作者：餅搗きだと薄氷と季重なりになると思っている。  
薄氷は春の季語だが、それほど寒くないときに張っている氷も薄氷というので、この場合の薄氷は季語として考えなくていい。

先日、実家の八街で餅搗きをしたが、3回くらい搗いてやめたら「天皇陛下みたいですね」と言われた(笑)。

枝々のふくら雀も数珠つなぎ 花苗  
こういう「も」はなんて言うんだっけ？そう、欲張りの「も」。他にも烏

がいるの？「も」はやめましょう。「枝々にふくら雀の数珠つなぎ」。

数へ日の病院いよよ人多し 洋子  
人が多いこと、なんと言う？そう、人混み。「数え日の病院いよよ混み合へる」。

抗菌の手摺掴まされて師走 泉  
掴まっただけで、掴まされているとした方がおもしろい。

あれ、少し時間があまった。だってらもつとダジャレ言えばよかった。何か質問のある人？

Q. 先生が仰る「俳句としておもしろくない」という意味が、わかるようにならなような。

A. それは、俳句がわかるとわかるし、おもしろくなる。わかりかけている段階だから、わからない。わかったら私はいらなくなる(笑)。俳句は意味がわかって何のおもしろさも感じないということがあつた。また、汚いことや残酷なこと、言っても仕方のないこともある。いくらシビアなことを言ったり、リアルに詠つても、どこかに救われるものがないといけない。それが文芸。

当日の行方代表の句  
軍靴ならずよ霜柱ざくざくと踏み  
これやこの太古の磁場も初景色  
男運悪くもなく西の市  
寒紅の下唇黙らせてる  
折檻のごとくに蒲団叩きけり

★昨年の流行語となった、インスタ映えする髪色でバッグには会員にもら

たという大きめのミニーマウス。何かにつけかなり飛んでる代表を、初めて見る方は面食らうかもしれない。句会とは言えば3分に1回は笑いが起こり、さながら笑い塾。時に脱線しながらも、お一人おひとりをしつかり捉え、全体とも相対しながら「愛情あるソフトなこき下ろし」を交え進めていく。直接指導の句会の数もさることながら、他にも吟行、同一季語で30句を詠む「三十句の会」の添削、そして一日「百句の会」もあるのだとか！この昼の句会の後は、明治屋の地下で小一時間ワインと軽食をとり、夜の句会へ戻っていかれた。楽しく教え、学ぶというのを肌でつかんでいらつしやる。

(木戸敦子)



▲常に笑いあふれる「知音」京橋教室

# 中原操雪様

(東京都・江東区)

## 川柳句文集『赤いおとし蓋』

昨年9月「川柳句文集 赤いおとし蓋」を上梓された中原操雪さんにお話をうかがいました。

### Q A4サイズの真つ赤な句集だが

縁あって「東京みなと番傘川柳会」に所属して27年。80歳になる記念に川柳句集をまとめたと思うといいとき、妹が「中にはジーンとくるいい句もあるよ、句集作ってみたら？」と背中を押してくれた。そこに御社の資料が届き、書かれていた「抱きしめたい本」のコンセプトがまさに私のことを言っている！と感激し、よし、抱きしめたくなる今までにないような句集をつくらう、と柳誌「港」の制作もしている御社に電話をした。

### Q ご出身は福井県とか

福井の片田舎で4人兄弟の2番目の長女として育った。実家は養鶏を営んでいたが、進取の志を持った両親は4



▲トレードマークは赤 お帽子も赤でした!

人を大学まで出してくれた。女も手に職をつけた方がいいという父の考えで、料理が好きだったこともあり食物科へ。最初の就職先は智徳寮という立教大学野球部の合宿所。ちょうど長島さん、杉浦さん等とは入れ違いだったが、男子学生120名の食事はもちろんのこと、公にできないような様々なお話を聞いた(笑)。その後転職、勤めた先の関係者と結婚。それからが大変だった。

### Q 街道の並木に列を正される

嫁いだ先は米屋。夫は主に外回り。玄米をタンクに移し精米、糠がたまると袋に入れ、測った白米の袋を積んだり：とまさに力仕事。30kgの袋を11段積んだことも。稼業だからがんばらなきゃと必死だった。夫の両親、住み込みの従業員、小姑の子をおぶって仕事をしたりと、店も家もてんてこまい。

ある日、義父が私の食べ物の腕を生かしてお店を開いたら？と言うので米屋と間口を半分にして、総菜やお弁当を売り始めた。私が作ったものを「おいしかったよ」と言ってお金までくださる、本当にうれしかった。でも体を酷使し過ぎてもたなくなつた。ある日、保健所で検査をすると即刻入院。

乳がんのステージ4、右乳房全摘、50歳の時だった。名医と巡り会ったことと、母が必死で探し知人に用意してもらった薬草酒のおかげで、奇跡的に命は助かったが、夫とは離婚、60歳でバツイチに。

一途に想い一途に泣こう片乳房電話なら君を彼方へ捨てられる



▲2000句にもおよぶ川柳の他、エッセイ、写真、色紙も入った『赤いおとし蓋』

息子は独立していたので、社会人の娘と二人暮らし。食べていかなければいけないので、パレスホテルの調理として働き始めた。思うように腕が上がらず、リハビリにと始めた社交ダンスに習っていた書道を再開したり、兄弟と旅行に行ったり。自分の好きなようにしたいことができる幸せ。離婚してからが私の人生だった。70歳を越える今度は心臓機能障害で、2度3度と職場から救急車で運ばれた。この間に、白内障の手術でウイリスが内耳に入り、現在は重度難聴2級の障がい者。でも、乳がん、離婚：と、どんな時にも傍らには川柳がいてくれた。

### Q その想いが詰まった句集

皆さん、感激、感涙したと、あたたかい言葉をくださったり、品物を送ってくださったりと、ありがたくてうれしくて。お手紙やハガキも2000人くらいにいただき、箱いっぱい。できることなら、両親と昨年亡くなった兄にこの句集を見せたかった。どんなに喜んでくれたことか。離婚して20年、元夫にも送った。

誰がための情を煮込むおとし蓋川柳と手話はこれからも絶対に必要

なもの。周りの人のおかげで、本当に幸せな人生を送っている。娘と穏やかに楽しく生きていきたい。散骨は夕日の落ちるその時に

★句集が校了し、あとは印刷・製本するのみとなった段階で「協力くださった皆さんにお礼を言いたい」と、ペースメーカーと補聴器をつけた中原さんは一人で来社された。「会いたかったの！」と、スタッフ一人ひとりに声をかけ、手話と一緒に「ふるさと」を歌い「また絶対に来ますね」と、感激しながら新潟をあとにされた。感じたことを身体と言葉で素直に表し、周りの人を喜ばせて幸せになっている典型的な方。昨年12月、バスの中で転倒され、今、懸命なりハビリを続けている操雪さん。必ず元気に復活され、またご来社くださることを一同心より願っています。(木戸敦子)



人数分プレゼントくださったタオルで作ったワンちゃん



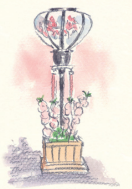
▲昨年9月にご来社 各人手話のポーズで、操雪さん手作りのブローチをつけて

# 投稿作品

## 短歌

※誌面の都合上、300作品を超える投稿があった場合、掲載はお一人さま1作品、先着300名様までとさせていただきます。今回の投稿作品数は、251でした。  
※しめきり 2018年3月15日(木)まで ※作品は原稿どおりに掲載しております。

- 1 三万日生ききて今が老い盛り存へて待つ老いの完熟  
黒澤正行(福島県)
- 2 つゆぞらのけむりとなりし妹よ是生滅法 寂滅爲樂  
山口静一(東京都)
- 3 新雪を纏いし雑木見下ろせば絵画一幅見ているが如  
田中豊恵(新潟県)
- 4 何ゆえぞ向う三軒両隣り死は無常にて医学事典見る  
早坂絃司(北海道)
- 5 恙無く一人居なるも戊年の七度目となる初日おろがむ  
夏井寛治(新潟県)
- 6 朝空に放たれし鳩の一団が光りとなりぬ向き変える時  
青木日出男(群馬県)
- 7 ひたすらに歩み来たりしこの小徑 今日歩めり明日をめぐし  
渡部美代子(山形県)
- 8 亡き母の頬に手をやる寝姿を寝つかれぬ朝気がつけば吾  
北澤実夫(東京都)
- 9 次々と逝く友ありて歳重ね空と大地に抱かれて  
寒川靖子(香川県)
- 10 北風に枯木にすがりカサコソとゆれる葉っぱのなごり舞見る  
高橋登志子(新潟県)
- 11 うぶ声に感きわだつて涙でる髪まだないが命に感謝  
五味田幸夫(東京都)
- 12 ストープの部屋でくつろぐ家猫の目にはみえない納得の距離があり  
濱崎祥子(鹿児島県)
- 13 せかされて倉と物置はなれ家と四代分を泣く泣く捨つる  
高須 孝(愛知県)
- 14 風のなき一日終わり日記書く心の音や色を感じて 阿部澄江(宮城県)
- 15 老家族年末年始通院し多病息災生きながらえて 大橋絵代(千葉県)
- 16 一日の介護もうけず逝きし姉ピンピンコロリみんなの願い  
野木宗信(奈良県)
- 17 風渡る杉の参道過ぎ行けば男体山の雄雄しく見ゆる  
関原幸子(東京都)
- 18 天上の幸かシャインマスカット団子と並んで競演している  
土屋喜雄(山梨県)
- 19 身を屈め歪な足の爪を切る余生支へる足いとほしむ  
久本にい地(岡山県)
- 20 羽子板にカチット響きくるくるとつく羽根の花舞い降りてくる  
大鳥居牧子(東京都)
- 21 インスタ映えすると人気の串団子トッピングされたカラフルな色  
桑原謙一(群馬県)
- 22 松濤の能楽堂を訪へば老松淋し時代の移ろひ  
内藤明子(東京都)
- 23 六十年嫁したる家業一筋に働らき通して迎えし百年  
峯岸信子(東京都)
- 24 左手のしびれる朝の厨辺に大根きざむゆつくりきざむ  
中沢敬子(千葉県)
- 25 日中の平和を祈る紫金草歌声響く里山の春  
合田浩子(茨城県)
- 26 初日受けタンチョウヅルは雪原の大地を蹴つて羽ばたきゆけり  
山田良男(埼玉県)
- 27 今年こそぜひ会いたいと添え書きの賀状が届く計報と共に  
岩崎令子(大阪府)
- 28 青青と天を仰ぐか若竹と岩に苔むす円通寺の庭  
西山知子(岡山県)
- 29 瞬きてコルに入る星遮りしダンベルの音厚き霜呼ぶ  
島田實貴男(群馬県)
- 30 暮れ正月大人の中に幼子の一人混ざれば場は華やかに  
早坂保文(宮城県)
- 31 我が家の近くに新駅つくられて身心あらたに初詣に乗る  
新井 賢(埼玉県)
- 32 マスクして帽子目深かなどちら様  
石原 岳(群馬県)
- 33 記憶つて振り向くことを教えます  
鈴木義雄(福島県)
- 34 トランプのハート足りないアメリカ製  
橋本世紀男(東京都)
- 35 老衰に立ち向かっても勝負なし  
守屋高雄(岩手県)
- 36 初日の出家族一丸ハイチーズ  
大久保アヤ子(東京都)
- 37 初夢や世界平和のユートピア  
阿部 至埼玉県)
- 38 人類は学んでいない戦争史  
原 崇雄(埼玉県)
- 39 アベノミクスもう歌わぬ踊らない  
木村洋一(新潟県)
- 40 丁寧といふ意味辞書で引いてみる  
小林七重(新潟県)
- 41 スポーツの切り抜きすんだ真実結弦  
佐伯セツ子(香川県)
- 42 平成の退位引継ぐ津波あと  
近藤富夫(東京都)
- 43 死んだこと知らぬ顔まだ温かい  
小山恵美子(大阪府)
- 44 曲るけど曲げてはならぬ指もある  
佐藤朗々(東京都)
- 45 村度が恥ずかしそうな顔をする  
長谷川庄二郎(千葉県)
- 46 迷信と解つていても厄払い  
細川光子(栃木県)
- 47 徘徊と散歩の区別出来ません  
岩崎政弘(岡山県)
- 48 取説の厚さでスマホ諦める  
木村誠一(神奈川県)
- 49 カラオケで脳を洗濯できればね  
関本 守(新潟県)
- 50 通知簿を見せつつ親の顔を見る  
奥那於子(大阪府)
- 51 夢に出る私はいつも健常者  
山口千鶴子(東京都)
- 52 詐欺被害歯止めかからず過去最悪  
久保壽雄(北海道)
- 53 晩成を信じて努力止められぬ  
目黒豊光(福島県)



俳句

- 54 冬波涛受け藻屑生む檻樓の舟  
菅井文男(新潟県)
- 55 輪ゴムよじれると<sup>ユス</sup>の字&の字  
丸山芳夫(東京都)
- 56 湿布葉貼り合う仲のいい夫婦  
和崎治人(山口県)
- 57 年明けてあつといふ間の八十代  
油谷博子(兵庫県)
- 58 雪の森うまかったなあおつけもの  
五十嵐陸博(新潟県)
- 59 銀杏散る机上の整理儘ならず  
竹本芙美子(新潟県)
- 60 この先は浄土なるらし冬遍路  
井原穂子(東京都)
- 61 小春日や双子を乗せて乳母車  
檜山柚子香(東京都)
- 62 小吉といふ相応の初籤  
高崎登喜子(東京都)
- 63 鳥海山の蒼穹を指す冬木の芽  
古谷 力(東京都)
- 64 老いの恋いま慎めと初神籤  
松田重信(埼玉県)
- 65 外食の夫婦勤労感謝の日  
山崎吉晴(群馬県)
- 66 バイパスを渡り切れない狸かな  
中島光江(埼玉県)
- 67 巨影の影になびく影あまたあり  
緑川禎男(埼玉県)
- 68 玄関の靴十足の御慶かな  
天野輝子(東京都)
- 69 年の瀬や巫女のたすきや笹ぼうき  
清まさじ(静岡県)
- 70 ヒツウチの電話の多し年の暮  
二瓶邦枝(埼玉県)
- 71 初雪やそつと見上ぐる空の色  
田中恵美子(山形県)
- 72 寒濤や雲と見紛ふ佐渡島  
川口 襄(埼玉県)
- 73 うとうとと春の陽気に昼寝かな  
湯浅暉子(石川県)
- 74 点滴の器具引く音や冬病棟  
杉原明子(静岡県)
- 75 しんがりが時に先頭鳥渡る  
三津木俊幸(千葉県)
- 76 干柿連なつて青空を占拠  
白松いちろう(千葉県)
- 77 玄関にはやばや灯す秋の暮  
水落重式(新潟県)
- 78 裸木の毛細血管春待てり  
梶 鴻風(北海道)
- 79 点眼の一滴たりとも冷たかり  
重原爽美(新潟県)
- 80 ほろ苦き初恋の味年酒酌む  
居原田暹(大阪府)
- 81 日向ぼこ蟻の一匹語りかけ  
金子範子(高知県)
- 82 男の孫の声ぶつきらぼうに太くなり  
石尾曠師朗(東京都)
- 83 目くばせで孫に教へるカルタ取り  
村田吉雄(東京都)
- 84 闇からの風の間に間の除夜の鐘  
磯部 力(新潟県)
- 85 ポインセチアはるか遠くに赤城山  
青木延子(埼玉県)
- 86 転ばぬやう食べ過ぎぬやう冬に入る  
近藤薫也(千葉県)
- 87 初みくじ笑顔で結ぶ老夫婦  
松前邦広(千葉県)
- 88 煤抜けの小さき気焔居酒屋に  
川嶋法子(東京都)
- 89 バス停の吉原大門秋の暮  
松尾らん(東京都)
- 90 平成の夜を振り返る年の果  
大谷 茂(埼玉県)
- 91 あすの夢地球にあずけ枯野ゆく  
大塚徳子(埼玉県)
- 92 俳縁の思ひ出標き隼人瓜  
有坂馨園(福島県)
- 93 初晴や炭坑無きこの地過疎深む  
濱田イサオ(福岡県)
- 94 夕暮の色に変わりぬ冬紅葉  
岩田 信(神奈川県)
- 95 初御空仰ぎて夢の広がりぬ  
中田文子(大阪府)
- 96 木洩れ日やときめきの晩年梅香る  
内河邦久(東京都)
- 97 かたくなに写生句作り十二月  
中嶋清子(佐賀県)
- 98 先生も太鼓受けもつ文化祭  
宮宅芳子(岡山県)
- 99 裸木の梢の先まで生さる意志  
大阿久雅子(埼玉県)
- 100 聞香とやらを障子の外に聞く  
鈴木清子(埼玉県)
- 101 酒積み上げて二ヶ月の冬籠  
湯浅芳郎(岡山県)
- 102 山里や錦織り成し旅立ちぬ  
西條公雄(埼玉県)
- 103 老境といふ日直ぐ来る冬至来る  
岩村 昇(神奈川県)
- 104 関跡に木の実落つ風朱をこぼし  
上村元義(神奈川県)
- 105 山眠る山のごとくに妻眠る  
井上静夫(栃木県)
- 106 誰彼も世を隔てたり寒夕焼  
堀木和子(大阪府)
- 107 雪搔を終えてよき汗日課なり  
杉村美保子(岩手県)
- 108 五百羅漢の生命の宿り夕紅葉  
星 一子(神奈川県)
- 109 冬の月いのちふたつの透きゆけり  
佐々木素風(新潟県)
- 110 手をにぎるだけの介護や冬桜  
関山恵一(神奈川県)
- 111 豪商の運河も古りて柳の芽  
津田忠彦(岡山県)
- 112 歳時記をめくるめぐりの夜長かな  
田野倉訓郎(東京都)
- 113 門灯のことに明るき大晦日  
阿部徳夫(宮城県)
- 114 奉納の扇に一句福寿草  
鷺谷浅子(茨城県)
- 115 三ヶ日人間なんて人間よ  
福岡 悟(東京都)
- 116 独り身の形ばかりの豆を撒く  
長峰正晴(千葉県)
- 117 ライト浴び雨の裸木華げり  
小澤円梨(静岡県)
- 118 もの忘れ昔からだと初笑ひ  
佐藤儀雄(北海道)
- 119 落日の山くろくろと冬夕焼  
神 一男(静岡県)
- 120 木鶏のこころに学び初稽古  
田中 昶(鳥取県)
- 121 雪折れの竹に力を貰ひけり  
堅田秀子(東京都)
- 122 未知の道一步踏み出す大旦  
道給一恵(埼玉県)

- 123 冬の犬呪殺のごとく吼えてゐて  
安部 哲(新潟県)
- 124 蔵路地に根付けの紐を選ぶ師走  
橋本良子(埼玉県)
- 125 健康で感謝の八十路賀正かな  
門田善二(兵庫県)
- 126 てのひらをひらいて入る焚火の輪  
中村康浩(福岡県)
- 127 寒雀空屋の庭の砂遊び  
藤井春三(埼玉県)
- 128 逢いたきは蒼穹の日々句碑の里  
池田 岬(埼玉県)
- 129 釣瓶落し見落として行く文化財  
片山茂子(埼玉県)
- 130 海鳴りをひとり背にきき櫓あかり  
小島岳青(新潟県)
- 131 初雪の融けたる枝や水の玉  
井上氣海(広島県)
- 132 大川の赤き欄干初観音  
九法活恵(埼玉県)
- 133 なにごとも一歩がはじまり年始  
小林春雪(新潟県)
- 134 師走入り細き三ヶ月池に冴え  
長谷部喜代子(大阪府)
- 135 一輪の冬ばらひそと庭の端  
青木ケン子(埼玉県)
- 136 公園の鳩の飛び立つ大噓  
寺内 信(埼玉県)
- 137 職無しに馴れて迎える千代の春  
大橋恒次(新潟県)
- 138 藁の縊りあいた戸口も注連飾る  
菅原キイ子(宮城県)
- 139 ああ言えばこうと二人の冬ごもり  
井田由利子(宮城県)
- 140 耐える性母に似しかな寒椿  
伊藤久枝(埼玉県)
- 141 特養で誰も知らない寒椿  
宇田川正雄(埼玉県)
- 142 朝まだき吾を起こすや寒雀  
中村万年青(京都府)
- 143 剣の舞マリンバ百の手百のバチ  
富樫和子(山形県)
- 144 不意打ちの冬將軍の無言劇  
鏡たか子(山形県)
- 145 老いたりと言いたくはなし卒寿春  
日名子春実(群馬県)
- 146 深雪やガマズミとめツガイ雉  
齋藤博洋(秋田県)
- 147 終電車降りオリオンに迎へらる  
一瀬正子(埼玉県)
- 148 廢屋に蟬泣き止まず旅の宿  
杉本敬治(愛知県)
- 149 朝餉どき冬の日差しを至福とす  
宮崎敏昭(埼玉県)
- 150 初富士や自撮り棒とのせめぎあい  
北野耕兵(千葉県)
- 151 松茸の食べ放だいはカナダ産  
宇都木安子(東京都)
- 152 満開の苑で逢しよ冬薔薇  
中山日出子(大阪府)
- 153 きゅきゅと鳴く長靴の下雪すずめ  
田中こづえ(北海道)
- 154 天空の蒟蒻掘りや御師の里  
津布久信雄(東京都)
- 155 正座してめくる一枚初曆  
山崎鶴恵(鹿児島県)
- 156 散骨と遺書に認め久女の忌  
浦橋渴雪(兵庫県)
- 157 紅葉かつ散る朝鮮の手水鉢  
中野勝子(鹿児島県)
- 158 全身を湯船に伸ばし握る柚子  
田野井一夫(栃木県)
- 159 息白し素振り百本豆剣士  
吉里ひとみ(東京都)
- 160 古書肆にて妻に購う歌がるた  
本庄準也(埼玉県)
- 161 大仏の胎内冬の日の差して  
佐藤 信(神奈川県)
- 162 過不足なく八十路映すや寒の水  
村山徳英(埼玉県)
- 163 落葉掃く手を休めては来し方を  
木村 舩(山形県)
- 164 初空や人それぞれの見切りかな  
中川義彦(新潟県)
- 165 静かなる京の曙初比叡  
間森 坦(兵庫県)
- 166 初湯殿三波春夫を唄ふ父  
白川 博(新潟県)
- 167 冬ざれや一人の土鍋滾る音  
岡村君枝(茨城県)
- 168 初日さす顎まで露天湯に浸かる  
若林卓宣(三重県)
- 169 駅伝の掛け声強く寒四郎  
齊藤安弘(神奈川県)
- 170 鬘鏢といふ字が書けて初笑  
今井勝子(新潟県)
- 171 七福の笑顔が揃う宝船  
平林義康(兵庫県)
- 172 祈れども還らぬ人へ冬の月  
若月理依子(新潟県)
- 173 初風やにはかに浮ぶ親の恩  
本間ミネ(新潟県)
- 174 身の丈に生きて妻との初詣  
本間 進(新潟県)
- 175 寒紅を引いてつつがなき老後  
大窪美代子(大阪府)
- 176 立ちすくむ八十路の坂の初詣  
坂元正憲(東京都)
- 177 消えやらぬ煩惱いくつ除夜の鐘  
柴田恵美子(北海道)
- 178 落葉掃く秩父嶺近く見ゆる日よ  
高松玲子(埼玉県)
- 179 百選の道真つ向に初筑波  
安田芳江(茨城県)
- 180 将門の井戸に社に初詣  
光成高志(千葉県)
- 181 七十路の夢はゴッホか初写生  
沖 惇子(大阪府)
- 182 神棚へ破魔矢の鈴の音零す  
菊田和音(東京都)
- 183 竹林に山の声聞く冬いちご  
佐野和彦(静岡県)
- 184 下宿屋の空の下駄箱福寿草  
坪井研治(東京都)
- 185 冬虹の空へ羽撃け若人よ  
井原穂子(東京都)
- 186 堤防で未来を語る二人連  
檜山柚子香(東京都)
- 187 未来とは若さの特権冬の虹  
高崎登喜子(東京都)

こちらの写真を見て詠んでいただきました。



(写真提供：中川三郎さん)

フォトイック

- 188 久しぶり里に帰った若夫婦  
石原 岳(群馬県)
- 189 飛ぶ鳥に呼ばれふたりは虹渡る  
松田重信(埼玉県)
- 190 虹を見て防潮堤のプロポーズ  
山崎吉晴(群馬県)
- 191 失せつつもふたりを見遣る秋の虹  
千代田榮次(東京都)
- 192 アベックを冷やかしている鳥の群  
橋本世紀男(東京都)
- 193 倅せを願ふ二人に冬の虹  
天野輝子(東京都)
- 194 青き空二人の影に虹も立つ  
清まさし(静岡県)
- 195 一生も瞬きほどぞ冬の虹  
鈴木岑夫(千葉県)
- 196 見渡せば二人を祝う虹の橋  
田中豊恵(新潟県)
- 197 恋人と虹を渡って青空へ  
水落重武(新潟県)
- 198 消ゆるまで無心となれり冬の虹  
梶 鴻風(北海道)
- 199 餌を撒けば初日の岸に鳥柱  
居原田暹(大阪府)
- 200 若き日の虹の彼方にふと想う  
佐伯セツ子(香川県)
- 201 虹の橋やつと来たねと手を握り  
青木日出男(群馬県)
- 202 初恋は遠き空より小鳥来る  
近藤薫也(千葉県)
- 203 幸せは虹の向こうにもつとある  
松前邦広(千葉県)
- 204 二人きりラブラブ空想の世界かな  
渡部美代子(山形県)
- 205 冬の虹二人に熱い応援歌  
有田裕子(北海道)
- 206 初恋の儂さに似て秋の虹  
大阿久雅子(埼玉県)
- 207 寄り添へば虹も祝福鳥も又  
岩村 昇(神奈川県)
- 208 虹かかるふたりの世界無限大  
小山恵美子(大阪府)
- 209 幸せを探す二人の笑い声  
堀木和子(大阪府)
- 210 虹の向こうに逝ける日のこと年の市  
星 一子(神奈川県)
- 211 虹輝る二人の未来鳥も跳ぶ  
高橋登志子(新潟県)
- 212 旅立や春一切の興隆を  
五味田幸夫(東京都)
- 213 見晴るかす虹に水鳥乱舞せり  
津田忠彦(岡山県)
- 214 卒業だ虹の向うへ手を組んで  
濱崎祥子(鹿児島県)
- 215 二人して虹に夢見た遠い過去  
佐藤朗々(東京都)
- 216 レインボー七色の幸せカップルに  
阿部徳夫(宮城県)
- 217 虹の橋登ってみたい二人して  
阿部澄江(宮城県)
- 218 語らずも冬の虹見る愛を聞く  
福岡 悟(東京都)
- 219 うらやまし国境越えていく自由  
長峰正晴(千葉県)
- 220 海に立つつ冬虹に愛約し合ふ  
小澤円梨(静岡県)
- 221 虹の脚海に届かず消えにけり  
佐藤儀雄(北海道)
- 222 ふたありをサポートしてる虹や鳥  
長谷川庄二郎(千葉県)
- 223 冬虹を仰ぐふたりのしあわせを  
神 一男(静岡県)
- 224 古里がダムの底になろうとは  
岩崎政弘(岡山県)
- 225 ほそきはしごのぼりよりそひ冬の虹  
安部 哲(新潟県)
- 226 肩寄せて岬に立てば冬の虹  
橋本良子(埼玉県)
- 227 海辺立つ恋人達にかかる虹  
関原幸子(東京都)
- 228 復興の兆しか虹を見る二人  
久本にい地(岡山県)
- 229 爽やかや虹のとりもつシルエット  
片山茂子(埼玉県)
- 230 君は何色が好き冬の虹  
九法活恵(埼玉県)
- 231 あの鳥のやうに舞ひたし虹の空  
寺内 侖(埼玉県)
- 232 アイラブユーできすぎシンロケか  
しら 奥那於子(大阪府)
- 233 初春や虹の彼方によき予感  
井田由利子(宮城県)
- 234 二人たつ鶴飛ぶ虹の大河かな  
富樫和子(山形県)
- 235 この虹が消えない中にプロポーズ  
鏡たか子(山形県)
- 236 寄り添うて幸せ最中レインボー  
宇都木安子(東京都)
- 237 いつまでもこの幸せが続く世に  
中林恵子(大阪府)
- 238 夕虹や鳩は瞬へねぐらへと  
中野勝子(鹿児島県)
- 239 正月に見かけるふたり仲むつまじ  
大木和男(東京都)
- 240 婚約の今が一番時雨虹  
本庄準也(埼玉県)
- 241 青春の残像たぐる冬の虹  
村山徳英(埼玉県)
- 242 私にもこんな一枚欲しかった  
内藤明子(東京都)
- 243 二人の夢虹立つ空に展げゆく  
岡村君枝(茨城県)
- 244 ふたりして夢語り合う虹の空  
齊藤安弘(神奈川県)
- 245 これからが君等二人に期待する  
菅井文男(新潟県)
- 246 のぞみ持ち見上ぐ明日へと虹の橋  
本間 進(新潟県)
- 247 肩よせて虹に誓ったきみとぼく  
和崎治人(山口県)
- 248 青空に翼ひろげて絵になるね  
合田浩子(茨城県)
- 249 恋人の先に幸あれ春の虹  
山田楽山(埼玉県)
- 250 夢のある作者に乾杯年はじめ  
岩崎令子(大阪府)
- 251 アベックを虹や鳥どち囁すごと  
佐野和彦(静岡県)



(写真提供：伊丹三樹彦さん)

上の写真から、自由にイメージし五七五(俳句か川柳)で表現してください。応募はアンケートハガキ投稿欄にてお待ちしております！

俳句・川柳募集!!





「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たくさんの回答をお寄せ頂きありがとうございました！その中で特に多くの評価を集めた作品と、それを選んだ理由の一部をご紹介します。  
※大賞と自句自解コーナーは年1回です。

※今回、昨年一年間で読者のみなさまからジャンルを問わず、一番票の多かった方を年間大賞として発表します。

◆年間大賞(平成29年)

しづるるや明日売る牛の顔を拭く  
岡村君枝(茨城県)



岡村君枝様

〈受賞のことば〉

今回私の俳句が年間大賞に選ばれたとの事、大変驚き嬉しゅう御座居ました。お選びくださいました皆様有難うございました。

この句の経緯は那須連山の麓に広がる牧草地で酪農を産業としている家が点在していますが、私の実家はこの草原近辺で酪農ではなく養鶏業を営んで居ります。いつ頃でしたか帰郷した機に近くの牛舎を覗かせて貰い、その家に他国から嫁いで来たと言う人いろいろと話を聞かせて貰いました。乳牛の仕事と共に親牛に産ませた赤ちゃん牛を定時期まで育て仲買に出すまでの仕事です。毎日休みなく飼育している、自分の子と同様に可愛くて手離す時は何とも切ない気持ちになるそうです。

この様な背景の元に出来た作品でした。

12-1月号の心に残った作品

◎川柳部門

9 空白も記憶の一つ古日記

鈴木義雄(福島県)

空白は忙しかったのか、病であったのか。空白も大切な記録である人生は途切れる事なく記録を積みかさねる  
夏井寛治(新潟県)・自分の日記にも空白があった。術後の私の記憶、想像して記憶がよみがえった 濱崎祥子(鹿児島県)・私の日記も空白の時筆を持つ気にもなれない。悲しい日記録になつていきます 鏡たか子(山形県)・その時には書けない何かがあったのでしよう。振り返ればこれも空白の叫び  
目黒豊光(福島県)

4 おしゃべりな近所が町のセキユリ

ティー

丸山芳夫(東京都)

・この風景が庶民の暮しで助け合いもある 木村洋一(新潟県)・昔も今も、ご近所のひま人が寄って映画や町の噂をお喋りしています。それをセキユリティーに結びつけた面白い川柳です  
長谷川庄二郎(千葉県)・近所のコミュニティが防犯必要ですね 井上氣海(広島県)

◎俳句部門

59 山宿の秋を炊き込む自在鉤

川口 襄(埼玉県)

・「秋を炊き込む」が秀逸！美味そう  
な秋の味覚・茸飯？ 関山恵一(神奈川県)・山宿と自在鉤の取り合わせと中七の措辞が良い 寺内 侘(埼玉県)・良い旅でしたね 菅原キイ子(宮

城県)・自在鉤を再現する想いかられました 北野耕兵(千葉県)・昭和一桁生まれの私にはその光景がすぐ浮かび懐かしさを覚えました 木村 舂(山形県)・うまい句です。作れそうで作れない句です 今井勝子(新潟県)

85 ランドセル二百十日も駆けて行く

若月理依子(新潟県)

・子供の動くさまがいきいきとつる  
近藤富夫(東京都)・台風一過、ランドセルをゆらし元気に登校。駆ける子供達のすがすがしさがはればれしく快い 上村元義(神奈川県)・子どもたちの元気な様子が伝わってきます 一瀬正子(埼玉県)・悪天に負けず私も頑張るぞ！ 吉里ひとみ(東京都)

◎短歌部門

166 しみじみと古きノートをめくりつゝ、

短歌は心の足跡と知る

北澤実夫(東京都)

・作品と同じです、私も好きです 渡部美代子(山形県)・むかしのことが心に浮かびました。深謝 五味田幸夫(東京都)・私も同感！ 大橋絵代(千葉県)・私も毎月入っている同人誌「地上」(窪田空穂系)に七首投稿しています  
関原幸子(東京都)

182 Eメールよりも友の字温かく秋は

紅葉の絵手紙届く

坂元正憲(東京都)

・温みのある肉筆は下手な字、下手な文、下手な絵さえ真心をかんじ葉書き大好きです。Eメールの名文よりも：

内藤明子(東京都)・墨で認めた年賀状も心がこもり温かい 齊藤安弘(神奈川県)・今年私は、年賀ハガキの代りに親しい友人にはラインですませました。この句をみて反省しています  
岩崎令子(大阪府)

◎フォトニック

今回大賞はありませんでした。

◎他にも

5 耳遠く小便近く口達者  
橋本世紀男(東京都)

26 九十を過ぎて早くこともなし  
目黒豊光(福島県)

40 老ゆるとは手つかずの日日乱れ萩  
井原穂子(東京都)

60 卒寿今戦地を語る生身魂  
山崎吉晴(群馬県)

70 書も茶菓も身近に置きて居間の秋  
日名子春実(群馬県)

75 追ふ落葉追はれる落葉つむじ風  
梶 鴻風(北海道)

82 流星や鹿の子絞りの帯締めて  
橋本良子(埼玉県)

111 人住まぬ家に色濃き彼岸花  
井上氣海(広島県)

153 おもむろにマスク外して吐く本音  
望月哲土(東京都)

184 まだ何かやっておくことあるよう  
な師走の闇に除夜の鐘の音  
合田浩子(茨城県)

187 幼子は背負いしリュックぴよこびよ  
こと弾ませながらスキップして行く  
早坂保文(宮城県)

※今後もふるってご投稿をお願いいたします！

# Q

前回のアンケート  
集めているものは  
ありますか？  
それは何ですか？

## ★切手

・国内外の切手の収集。主として植物、動物、人物など

古谷 力(東京都)

・きれいな切手は切り抜いて保管しています  
大阿久雅子(埼玉県)

・世界のスポーツ切手を切手商からよく買いました。アルバムストックブック何冊もあります  
神 一男(静岡県)

・記念切手、大分たまりましたがビニール袋に入れっぱなし  
宮崎敏昭(埼玉県)

・何十年間も集めました。今は「終活」で日常使っています  
橋本世紀男(東京都)

・切手を集めて四十年、先日不要と処分。棟方・ひばり・裕次郎切手を残して古物屋に  
浦橋克行(兵庫県)

## ★古切手

・友人知人から来た手紙や葉書の切手を切り取り二十年近く保管、収集している  
田野井一夫(栃木県)

・済印の押した切手。集まった切手は友達が外国の友へ送り、喜んでもらっている  
濱崎祥子(鹿児島県)

・消印のある切手。因みに一番古いのは1937年もの  
原 崇雄(埼玉県)

・小五から集めている古切手  
小林七重(新潟県)

・下妻市報で募集し難民の子らへ助け合いに：  
鷺谷浅子(茨城県)

・何かの役に立つのではないと思いつつ：  
長峰正晴(千葉県)

・消印にそれぞれのふる里があります  
堅田秀子(東京都)

・社会福祉協議会に持っていく利用してもらっています  
関原幸子(東京都)

## ★記念硬貨、コイン

・記念硬貨  
山崎吉晴(群馬県) / 宇田川正雄(埼玉県)

・古銭(祖父の蒐集品をもらいました)  
松尾らん(東京都)

・近頃は手軽に「昭和六十四年」の一円、五円、十円を気にかけています  
寺内 侷(埼玉県)

## ★新聞、雑誌の記事

・週一回の新聞にのる俳句や川柳の記事  
鈴木義雄(福島県)

・気になった記事やいろんな切り抜き、自分の川柳や絵  
小山恵美子(大阪府)

・娘の投稿した記事や取材で載せてもらった新聞  
阿部徳夫(宮城県)

・某紙の「天声人語」切り貼り40年と「折々のうた」に「折々のことば」  
福岡 悟(東京都)

・新聞記事のスクラップ  
中村康浩(福岡県)

・新聞紙の切抜き(原発・皇室・県内出来事)  
菅井文男(新潟県)

・茶色に変色した古い記事がなつかしくてすてられない  
岩崎令子(大阪府)

・『根室文学史』の資料となる新聞、雑誌など  
早坂絃司(北海道)

## ★石

・旅で持ち帰った「小石」  
鈴木岑夫(千葉県)

・中国の雨花石  
梶 鴻風(北海道)

・何年も昔の人が使った石ウスで粉を作った丸いうすい石  
青木日出男(群馬県)

・旧生駒火山の鳴石位  
野木宗信(奈良県)

・小さな石  
伊藤久枝(埼玉県)

・若い頃旅に行った先で小石を拾い、それに短歌など書きとめたものがいくつか  
桑原謙一(群馬県)

## ★化石

・化石・岩石(現在はなし)  
津布久信雄(東京都)

・「化石」です。しかし超高令者になっており「終活」の対象に  
田野倉訓郎(東京都)

## ★植物

・雪割草。大鉢はもてませんのでコンパクトに育てると思います  
渡部美代子(山形県)

・草花や花木  
花の種子とか挿木の枝とか取木とか苗を育てて空き地に植えて楽しんでいます  
田中豊恵(新潟県)

・野草  
緑川禎男(埼玉県)



## ★包装紙

・折り紙や輪飾り、テープ、七夕飾りに多く使います  
小澤円梨(静岡県)

・包装紙とかきれいな紙を見るとつい捨てられなくて溜まってしまいます  
星 一子(神奈川県)

## ★御朱印

・御朱印  
青木延子(埼玉県) / 吉里ひとみ(東京都)

・旅をする度に全国の神社仏閣で御朱印をいただきます  
高崎登喜子(東京都)

## ★動物の置物

・土鈴ふくろう人形など  
旅先でみつけるとついつい買いい求めています  
本間 進(新潟県)

・寅の置物(寅年なので)  
水落重式(新潟県)

・会社の商標に関係のある象を集めています  
松前邦広(千葉県)

## ★スポーツ関係

・プロ野球各チームの帽子を集めている  
坂元正憲(東京都)

・カープグッズ  
井上氣海(広島県)

## ★映画のパンフレット

・映画、美術館、観劇等々見たたり行ったりしたチケットの半券、パンフレット  
宇都木安子(東京都)

・見た映画は必ず買います  
中山日出子(大阪府)

## ★布

・古布  
菅原キイ子(宮城県)

・残布。つなぎ合せて手芸する  
中田文子(大阪府)

## ★孫の写真

・「孫の写真」ついつい手元に集めてしまっています  
本間ミネ(新潟県)

・三人の孫の写真。スマホに1,000枚位保存  
白川 博(新潟県)

## ★箸袋

・箸袋、宿の思い出、老舗の料理店のところと年月記入  
藤井春三(埼玉県)

- ・入場のチケットと箸袋  
井上静夫(栃木県)



- ★こけし  
旅行先の旅館で求めたもので大小を含めてかなりの数になり現在困っています  
村山徳英(埼玉県)

井田由利子(宮城県)

## ★何種類か

- ・切手、新聞のスクラップ、などなど  
長谷川庄二郎(千葉県)
- ・コレクションは切手、ベルマーク、ポトルキャップ 和崎治人(山口県)
- ・切手、コイン 中嶋清子(佐賀県)
- ・切手と旅先にあるマグネット  
片山茂子(埼玉県)
- ・新聞の切り抜きと切手です  
木村 舂(山形県)
- ・JAZZのCD、化石、ブリキのオモチャ、古い食器、骨董等  
稲葉民雄(千葉県)

稲葉民雄(千葉県)

- ・切手、絵はがき、文房四宝、遊印、風景印、孫貯金などでしたが止めました  
石尾曠師朗(東京都)
- ・昔は切手、コイン、ハガキ、旅のみやげ箱、きれいな箱はしおりにして使っています 佐伯セツ子(香川県)
- ★その他  
20年前まではCD(クラシック音楽)  
齊藤安弘(神奈川県)
- ・「千支の編みぐるみ」の収集  
山田楽山(埼玉県)

山田楽山(埼玉県)

- ・「風」頭陀袋につめておく。「腹立たしさ」を吹き飛ばす時、利用する  
松田重信(埼玉県)

松田重信(埼玉県)

- ・ダルマさん  
阿部 至(埼玉県)

- ・パッチワークの袋、タペストリーなど  
杉村美保子(岩手県)
- ・ブローチ 湯浅暉子(石川県)
- ・ベビー服。老犬倅子のお洋服に母がリメイクしてくれています  
大橋絵代(千葉県)

大橋絵代(千葉県)

- ・ワインのコルク栓  
岩田 信(神奈川県)

岩田 信(神奈川県)

- ・偉人の名言 三津木俊幸(千葉県)

- ・歌謡曲でミリオンセラーとなったレコードの歌詞。曲よりも詩が句作に役立っている 居原田暹(大阪府)

- ・海岸のガラス玉  
山崎鶴恵(鹿児島県)

- ・絵葉書 五味田幸夫(栃木県)

- ・強いて言えば「感動」  
杉本敬治(愛知県)

- ・蕎麦猪口 中野勝子(鹿児島県)

- ・句集 濱田イサオ(福岡県)

- ・現在奥さんが週刊ロビイを集めています。作るのは私  
大木和男(東京都)

- ・五十円玉、缶に一杯になったら何を買うか?  
岡村君枝(茨城県)

- ・根付 橋本良子(埼玉県)

- ・子どもたちの抜けた乳歯…。マンションで屋根も縁の下もなく捨ててるのものびなく…  
若月理依子(新潟県)

- ・ドイツの木工芸品 関本 守(新潟県)

- ・自分の写真を集めております。毎年一枚ずつ 松尾正一(岩手県)

- ・強いて言えば人のこころです  
池田 岬(埼玉県)

- ・焼物(全国各地の陶磁器)  
田中 昶(鳥取県)

- ・色紙を集めて折り紙を楽しんでいます  
高橋登志子(新潟県)

- ・す 地方の小出版社刊行の書店に置いてない珍しい本など  
中村久仁子(京都府)

- ・都道府県の観光地図。あと秋田、岐阜、沖縄がほしいけどもう旅行も無理  
天野輝子(東京都)

- ・訪れた神社の「御守」大切にしています  
中川義彦(新潟県)

- ・民窯推薦のぐいのみ、山と海の流木  
北野耕兵(千葉県)

- ・木の実、花、ドライになる物。部屋に飾ります 大鳥居牧子(東京都)

- ・篆刻石 近藤薫也(千葉県)

- ・特になし(お金も集まらない、アハハハ)  
重原爽美(新潟県)

- ・旅先の地酒のビンです。ラベルもすてきです  
阿部澄江(宮城県)

- ・葉(本に挟みます)  
西山知子(岡山県)

- ★収集した結果：  
整理に苦慮の日々  
有坂馨園(福島県)

- ・昔必死で集めた物が今、処分したい物になりました 奥那於子(大阪府)

- ・全てを処分する年令になりました  
寒川靖子(香川県)

- ・本が一杯たまって図書室を開放！  
合田浩子(茨城県)

- ・若との同居で切り抜き、切手、写真、絵もすべて捨てられ現代の生き方のちがいで泣きました  
高須 孝(愛知県)

- ・集めているものは多々あれど…幼少期から収集癖があるという「喜怒哀楽」の読者、群馬県・太田市の青木日出男さんにその一端をご紹介します。

- 「犬も歩けば 棒に当たる」  
青木日出男さん

少年時代より、畑道を歩くことが好きだった。畑の中より出た物が積んである場所に、食器類から石の槍、刀、鍬といった闘争具まで、古代人の使用した物があるからだ。

書店は古書店に限る。二・二六事件で同期生の手により銃殺刑になった若き志士等に関する書籍二〇冊ほど所有している。みな青年将校であり、結婚ホヤホヤの者が多い。某国会議員の愛人が切々たる想いを記したラブレターなども古本の中にあり、これなどは珍品。

当初教育勅語を起草し、陛下より「もつとやさしい文にしないと万民に読めない」と、改めてご下命があった伯爵従一位芳川頭正氏の功績を称える墓碑の原文もある。新田町施行記念で、テレビ番組「なんでも鑑定団」が新田義貞ゆかりの品を募集したが全く集まらず、私が所有している振袖型軍旗一流が採用されたこともあった。



書店は古書店に限る。二・二六事件で同期生の手により

12-1月号へお寄せいただいたお声の一部をご紹介します！皆様からのメッセージが、私どもスタッフの励みです。率直なご感想や親身なアドバイス、いつもありがとうございます。皆様のお声で、情報誌「喜怒哀楽」がつくられていきます。

- ・ 佐山組 川崎先生のユーモアを含めた司会の雰囲気伝わってきました。また初心者向けの教材など大変勉強になりました。
- ・ 『日々是好日』の金澤アイさん。九十五才でも執筆、すばらしい！笑顔のやさしいアイさん、これからの目標です。
- ・ 心に残った作品の選評が的確ですばらしい。秀句は選者によって作られるとつくづく感じました。
- ・ 俳句の整理の仕方について織田亮太郎さんの極意について学ぶ点がありました。特に未発表の作品のメンテについて。
- ・ 新潟ぶらりのドナルドキーン氏の功績を見聞する毎に氏の年令を越えた意気と知見の広さ、深さを感じキーンセンター柏崎を訪ねたいと思う。
- ・ にいがた文化の記憶館便り 忘れない虹児、憧れの画家。少女時代の多くの日々を彩った記憶にひたりました。
- ・ 食楽句楽 「雪見酒を楽しむ」 酒飲みは何でも口実にして飲みますが、「雪見酒」が一番風情有ります。新潟の「銘酒」は美味しいです。
- ・ 佐藤りえさんのリレーエッセイ楽しく拝読、機会がありましたなら再登場期待。
- ・ 若松英輔氏の金言に大いに触発されました。老いの日々を頑張っ生きていきたいと思ひます。
- ・ 病にたおれておりますが、皆さんの作品に元気をもらひ又頑張りたいとうれしく思ひます。

※今号へのお声も、ぜひお寄せください！

## 新潟ぶらり

### ◆安吾が将棋にみたもの

将棋の対局を観る、そこに人はいったい何をみているのだろうか。

坂口安吾（新潟市出身。一九〇六一九五）は、一九四七年から四九年のあいだ行われた対局を観、「将棋の鬼」「勝負師」等を著している。安吾は将棋に詳しくかつた訳ではない。ではなぜ――。

新潟市中央区にある、安吾風の館で「安吾の将棋観戦記」という企画展が開催中である。当展示では安吾の自筆原稿や初出誌・初版本、取材メモ、そして安吾の蔵書を見ることができる。

取材メモはちいさな文庫手帖で、指し手のみではなく、棋士の一挙手一投足が細かに記されている。それはなにもかも、安吾が対局に「人間の心理の争いを見たかった」からである。安吾にとって将棋は、棋士どうしが命を懸けた勝負に挑んでいる姿を見る場であった。なかでも名人戦は「最も凄惨なスポーツ」と表現している。

蔵書には、安吾が対局を見守った木村義雄（十四世名人）の署名入りの贈呈本『最新将棋必勝法』のほか、宮本武蔵の『五輪書』もあった。これは、安吾が将棋に文字通り真剣勝負を見、勝負というものは何なのか、考察を深めていたことによる。

十年不敗の木村義雄が名人位を失おうとする様子を描いた作品のタイトルは、「散る日本」。日本、とあるところ、将棋の勝負というところから、日本の敗戦の原因および新しい日本のあり方にまで考えを發展させている。

さらに、新しい日本に必要なものを棋士の升田幸三（実力制第四代名人）に見出し、それを自身に重ねてみる。「升田八段の将棋における新風がやっぱり原則は私と同じもので（中略）新しい出発というものはじめているのは、文学における私と、将棋における升田と、この二人しかおらぬ」（坂口流の将棋観）。

近年では将棋の世界にAIとの対局も登場した。しかし、人はたんなる勝負の結果をその対局に求めてはいない。棋士が真剣に勝負に挑みつづける姿を、人は何かに重ねている。だから安吾も将棋を観たかったのだ。（菅真理子）

旧市長公舎 安吾風の館  
「安吾の将棋観戦記」展示2018年3月25日まで  
住所／新潟市中央区西大畑町5927-9



▲手前にあるのは「勝負師」の複製原稿

にいがた  
文化の記憶館  
便り(18)

文化勲章の詩人 堀口大學

秋岡 啓子

日本の近代文学史の中で、詩というジャンルは翻訳詩から始まったといわれます。特に、上田敏の『海潮音』（明治38年）、永井荷風の『珊瑚集』（大正2年）と並んで高く評価されるのが、堀口大學の『月下の一群』（大正14年）です。これらの訳詩集は、表現内容や言語表現において、当時の詩壇に大きな影響を与えました。

たとえば大學が訳したジャン・コクトーの詩で、「耳」という作品があります。

私の耳は貝のから 海の響をなつかしむ

有名な詩なので、ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、これが翻訳とは知らずに愛唱していた方もいらっしゃるかもしれません。大學以前の訳詩は、原詩を日本語の詩の観念に合わせて翻訳したといわれています。それに対し、大學の訳詩は原詩のイメージに日本語を合わせていったものだという点で評価されています。

堀口大學（1892～1981年）は東京帝国大学の赤門前で生まれ、当時父の九萬一が大学生だったということから「大學」と名付けられました（本名です）。九萬一が大学卒業後、日本初の外交官試験に合格し、海外に単身赴任したことから、2歳の大學は母とともに父の故郷・新潟県長岡市に移り、中学（現在の高校）卒業まで同地で暮らしました。その後、文学を志して上京し、与謝野鉄幹・晶

子夫妻が主宰する東京新詩社に入社。このとき知り合った同い年の作家・佐藤春夫とは終生の友人となり、ともに慶應義塾大学文学部予科に進学しました。

2年のとき、メキシコに赴任していた父に呼ばれ、大學は大学を中退して一時外交官を目指します。しかし病弱なこともあり、やはり文学の道で身を立てることを決意。その後も父に同行し海外の様々な国を巡りました。ベルギーではフランス象徴派の詩を見出し、スペインでは女流画家マリー・ローランサンとの出会いからアポリネールの詩に熱中しました。そして口語や文語を駆使した美しい日本語で、フランスの近代詩を国内に紹介しました。

当時、美術や音楽を学ぶためにヨーロッパへ留学したという話はとりわけ珍しくありませんが、文学の世界となると話は別です。現地の文学サークルにどっぷりと浸かりきるためには、相当な語学力が必要となるからです。ちなみに大學と同時代にイギリスに留学し、シュルレアリスムの文学を日本に紹介した西脇順三郎（1894～1982年）は長岡市の隣の小千谷市出身です。西脇はノーベル賞に6度ノミネートされたことがあり、大學は1979年に文化勲章を受章しました。新潟が誇る、近代詩の発展に貢献した二人の詩人です。



▲1925年ごろの堀口大學



◀良寛の屏風の前に座す堀口大學  
(ともに写真提供は堀口すみれ子氏)

【展覧会情報】

企画展示「近代詩のパイオニア 堀口大學」

会期：2月23日(金)から4月15日(日)

休館日：月曜日

「食楽句楽のすすめ」の執筆者・岩田桂さんは、岐阜県生まれ、新潟市在住の元大手企業の企画マン。

畑を耕し、俳句の主宰をつとめ「食楽句楽」を実践しつつ

人生のセカンドステージを満喫されています。

食と俳句とのコラボレーション、当意即妙のエッセイをご賞味ください。

## 食楽句楽のすすめ(18)

### 噛みしめる蛸のしゃぶしゃぶ

岩田 桂

そういえばそんな看板を掲げた店があったっけ、としかいえません。

牛や豚のしゃぶしゃぶなら何ということはないが、好奇心の強い人たちは「そう、蛸のしゃぶしゃぶなの…念の為に調べておこうかな」と、店の戸をたたきます。

「ここ新潟でも「蛸しゃぶ、やっています」という看板を掲げた店があり、冬場は結構流行っているようです。とくに女性のファンが多い。「芋、蛸、南京」が女性の三大好物であることは、井原西鶴の言葉として分かっているが、それにしても、たこ焼きではなく蛸しゃぶが人気なのはどうも解せない。

さっそくマンションの食べ歩き会のメンバーを、調査に派遣することにしました。半数以上が女性参加の雪のちらつく夕方です。

招き入れられた舞台は、薄暗い和室の貸し切り部屋です。すでに昆布だしの水を張った土鍋が三個、卓上のご真ん中に置かれ、さあ、いつでも来いと言った構えです。

「ようこそいらっしゃいました。昨日予約していただいた方ですね」

「そうですね、おやじさん、やっかいになりますよ。今日は一〇人の大勢できました。例の蛸しゃぶを頼みますよ」

「ハイ、ハイ、今朝、魚市場で、ぴちぴちの生きたモノを仕入れてきましたよ」

「これがその蛸ちゃんですよ…」と、桶に入れた蛸を見せびらかしてくれました。

この店の蛸は生きている蛸。スーパーで売られている生蛸は、死んだ蛸なのだそうだ。

そして蛸みたいな顔をしたおやじさんの、ドラマ開演のパフォーマンスも終り、いよいよ蛸しゃぶ会

の始まりです。

まずは温めの酒と突き出しの蛸のから揚げで乾杯。この蛸のから揚げが実にうまい。もう蛸をしゃぶしゃぶする前からお互いに、蛸のような口を尖らせている(本当)。

調理場ではおやじさんが蛸と格闘しているのが、ちらちらとその姿が見え隠れする。あんな化け物みたいな軟体動物を、どのように捌くのだろうか。もしかして蛸に墨をかけられているのではないか。

このお店は生きた蛸を捌くらしい。一般的には冷凍のままの蛸をスライサーで薄く切り分けるのだが、このおやじさんは、包丁で捌いている。蛸の切り身の厚さは、長さは、とさらに好奇心が燃え上がるボク等です。

#### なほ逃げる蛸の筋肉切りわけ

小半時も過ぎた頃、いよいよ真打の登場です。柿右衛門らしき大皿に、さきほどの蛸が透きとおるような薄切りで配置されて登場です。厚みは一ミリくらい、長さは十五センチほど、巾は三センチほどに切り分けられて、まるでザク切りの千枚漬けのようです。

よくぞここまで薄切りしたな、とおやじさんの腕の確かさに驚くばかり。

さっそくプロの食べ方をおやじさんから伝授してもらいます。

\*最初は刺身としていただく

こと

\*そのあと蛸を「湯の中で三

振り」して紅葉ボン酢で

食べる

\*五振り以上すると蛸が縮むから注意すること

以上の三つの動作で召しあがれとのこと。

伝授が終ると調査団の箸が一斉に、蛸を大皿から引きちぎり、三振りへと眼の色を変えて突入します。しゃぶ、しゃぶ、しゃぶというリズムを取り、蛸を湯の中で泳がすと、丁度三振りになるからうれしい。



三振りするとほんのり温かい刺身となる。口に迎え入れると歯茎や天上にぶつかり合い、微妙な噛み心地が味わえるからたまらない。

一切れを飲み込むまでに約二〇秒ほどカミカミする。この時間が実に良い。いわば噛んでいるだけの時間がかかり長いので、完全に噛み切れなくても、喉元をすんなり落ちてゆく感覚がまた良い。さらに噛んでいる間には、様々な考え事が脳裏を過ぎる。うむ、これが蛸問答というやつかあ(まさか)。

#### 問答をして蛸しゃぶと戯れり

三振り、二〇秒カミカミ、しゃぶしゃぶをくり返していると、何故か人生の幸せを噛み締めているような心地がしてくるではないですか(本当)。人生にはこういう幸せもあるんだなあと、蛸が教えてくれるのですよ、カミカミは…。

うっ、この感覚が、女性たちに恍惚感を誘発させているのかも、と思わず辺りを見渡すボク等です。とにかくしゃぶしゃぶと小まめに作業します。カミカミすると認知症の予防にもなるかもしれないなあ。

それにしても蛸をしゃぶしゃぶと、泳がせた人は偉い人です。タイやマグロ、カニなどのしゃぶしゃぶは聞いたことがあるが、こと蛸にまで及ぶとは。

その偉人、いや先発の発祥は、どうも北海道らしい。それも最北端の稚内らしい、というのがお店のおやじさんの話です。日々の激務を乗り越えるために漁師たちが、海で豊富に取れる蛸と昆布を、鍋に仕立てたのが始まりだという。

そういえば「本場の蛸しゃぶ食べ放題、稚内の旅」という旅行ツアーが女性に人気だと聞く(まさか)。「蛸しゃぶを食べて、人生の幸せを噛みしめよう」という誘いであろうか。なるほど、なるほど。

そうならば顎に元気があつた内に、その発祥の地を訪ねなければ、と希望を抱くボク等であります。それにしても庶民的なこの蛸しゃぶしゃぶ、カミカミ的な人生の匂いがするけれど、たまりません。

最北の町蛸しゃぶに雪がふる



## せいげつ 第5回 井月忌の集い

芥川龍之介が慕い、山頭火が憧れた漂泊の俳人、井上井月を顕彰する「第5回井月忌の集い」が開催されます。俳句大会に加え、映画鑑賞会、懇親会も予定されています。

- ◎日 時 平成30年3月4日(日) 午後1時30分  
(当日投句は午後1時～1時30分受付)
- ◎会 場 主婦会館プラザエフ地下2Fクラルテ  
(JR四ツ谷駅前)
- ◎当日投句 当季雑詠2句1組  
参加費 1,500円  
(出句の有無に関わらず)
- ◎懇親会 午後6時より  
14名の選者を囲んで
- ◎問い合わせ 井上井月顕彰会東京事務局  
TEL 03-3341-6975  
今回からは事前投句も実施された「第5回井月忌の集い」▲



## 爽樹俳句会 新年会開催

1月28日(日)、川越東武ホテルにて爽樹俳句会の「新年会並びに俳句大会・句集出版祝賀会」が75名の出席のもと開催されました。会のモットー「楽しく和やかに」をそのままに、芸達者な方も多く二次会も含めて終始笑いに包まれた新年会でした。

- 川口代表特選句より
- 未知の世に一步踏み出す初曆 ひさ子
- 紙漉の工房に入る月の影 あき子
- 北斎の濤を眼下に鷹舞へり 道子
- 地平線蹴つて初日の出でにけり 道子
- 土産なき子へ夜咄の続きより 裕介

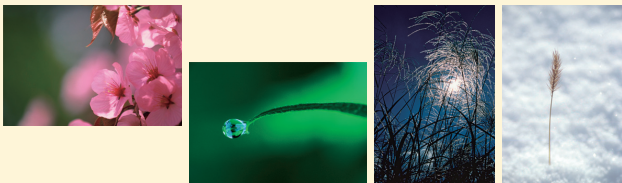
### びに俳句大会・句集出版祝賀会



◀創刊7年目に入った「爽樹」の川口襄代表

## ポストカード販売しています!

春夏秋冬、各季節の草花を大胆に切り取ったポストカードを販売しています。今号(96号)に同封したのは芽吹き「debut」。撮影した新潟市在住、高橋ノリユキさんは、この度「會津八一の歌を映す」第11回秋艸道人賞写真コンテストで、審査員特別賞を受賞しました。8枚1セット500円。ご希望の方は、必要分の切手を同封のうえ、封書にてお送りください。



## みんなのエッセイ 「わたしの初恋」が完成!

2月のバレンタインデーに向け企画された合同のエッセイ集「みんなのエッセイ「わたしの初恋」」が完成し、ご投稿くださった方にお送りいたしました。こちらは俳人の池田澄子さんにもご寄稿いただき、特別な一篇を読むことができます。

みんなのエッセイ「わたしの初恋」読んでみたいという方は、お問い合わせください(連絡先P16下部参照)。



▲「わたしの母」に続く2回目の合同エッセイ集「わたしの初恋」

## スタッフの一言

Q. 集めているものはありますか?それは何ですか?  
※新年の書初めを手に。この字にける思いは当社HPで紹介しています。



家族で何となく集めているのは旅のおみやげとしてマグネット。個人でのマイブームはオーバーサイズのお洋服。あとはメイク道具、アクセサリを作るパーツ、靴下、花器など。



ついでの前まで集めていたな〜シールに消しゴムにキティちゃんグッズは、なんと45年も前!もう時間感覚がおかしい。自発的ではなく偶発的に集まるのはミスをした本…極たまーにです(汗)。



お使い物を入れる見栄張り袋と言われるブランドものの空き袋。高校生の頃はチマチマしたサンリオグッズを集めて友達の誕生日プレゼントにしたり、通学鞆につけたりした思い出がある。



集めようと思ってもすぐに飽き……。「これいい!」と思ったらすぐに買ってしまうので、謎の物がため込まれていく……。そして捨てられない……。使わない原稿用紙とかどうするんだアレ……。



今はモノがあふれて集めなくても集まり過ぎて困るくらいです。十十年前の小学生の頃はきれいな便せんや封筒、メモ帳、鉛筆など集めては友達と交換したものです。あのワクワク感はいずこ…。



最近は、ないですね…。小学生のときはシリーズの本を古本屋で少しずつ集めたりしていたけれど。一冊、一冊と揃っていく感じが嬉しかったなあ。思い出すとわくわくしてきます。



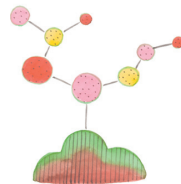
ミニマリストを目指しているではありません。強いといえば、お掃除洗剤でしょうか?色々なものを使ってみたくなり買ってしまおう。友人からももらったオキシクリーンに今夢中。



集めているかどうか、はてな?ですが趣味のプリザーブドフラワーの作品。その作品も近頃は1才の愛猫のオモチャになってしまっ…。そしてその愛猫の写真も集めています。



集めているものは特にありません。いつの間にか集まっているのはスーパーの袋ですかね?家族では、妹がぬいぐるみを約100体布団の周りに配置して寝ています。ちょっと怖い…。



## てぶら生活

小津夜景

わが家には車も自転車もなく、また散歩が好きなので、毎日かなりの距離を歩きます。

歩くときは、いつもてぶらです。

この、てぶら、というのは自分にとって大切なフィーリング。両手がモノでふさがっているときって、どこか気ぜわしく、きゆうくつで、疲れやすくなりませんか？

それがとても苦手なのです。

てぶらの良いところを挙げてみますと、ひとつめはなんといってもその開放感と自由度の高さ。ふたつめは心の中の見晴らしが良いこと。みつつめは感情の鮮度や思考の速度がぐんと上がる。よつつめは忘れ物をしなくなるのと。

忘れ物をしないというのは、荷物を置き忘れる気づかいが要らないということに加え、歩いている途中で出会った風景やそのときに感じたことを、さっと心に留めやすい、といった意味合いも含んでいます。

そんなストレスフリーの状態が心地よいので、散歩のときだけでなく、日々の買い物も背負うタイプのバッグを使い、両手はやはりてぶらです。

その格好で、海ぞいの道をてくてく歩いて買い物にゆくのですが、なにしろ身軽ですから、天気の良い日はそのまま砂浜に降りて、硝子や陶器の破片、乾燥した植物といったものを拾うこともあります。

今回から3回にわたりペンを執っていただくのは、今最も熱く活躍している俳人の一人、小津夜景さんです。前回までご執筆いただいた佐藤りえさん曰く「変幻自在な俳句世界と、独特な語り口の文章が癖になります」とのこと。どうぞ、ご堪能ください！

拾ったものはアパートのベランダに置いて楽しみ、もう飽きたなと思ったらゴミ箱へ。そしてまた気が向いたら、新しいのを拾ってくる。取っておくことはありません。実は部屋にモノがあまりすぎるのも苦手なのです。

人生というマクロな単位においては、持ち物の心配をしないわけにいきません。またその持ち物が多いほど、気苦もありつつ安心を得られたりもします。そして、だからこそ日常というミクロな単位では、できるかぎりの軽量生活を送りたい。と、そんなふうにいるのでした。

それはそうと、この「てぶら愛好」は子どもころからで、独身時代は日常のみならず旅行の際も、いつも出発時はてぶらでした。たとえば飛行機に乗るときは、上着のポケットにチケットと財布と鍵、そしてジーンズのポケットに小さく畳んだパンティを一枚だけつつこんで、そのまま搭乗します。正直言えば、本当はパンティも持ちたくないのですけれど、万が一飛行機が墜落したときに、この女の子は替えの下着もたずに旅行していたんだなあ、と他人様から思われるかもしれないのが嫌で、とりあえずアリの的に所持していた次第です。

若き日の自分にとって「一枚のパンティをもつ」とは、ストレスフリーな軽量生活を送りつつも最低限の社会的仁義は守っていますよ、と世間に言い訳するための無意識的行為だったのかもしれない。

### ●プロフィール

1973年 北海道生まれ。フランス・ニース在住。

2000年 留学で渡仏。

2016年 句集『フラワーズ・カンファー』刊行。2017年に同句集で第8回田中裕明賞受賞

### 編集後記

熱意のある人はすごい。P2の「知音」行方様もP5の中原様も、自身の表現として俳句や川柳といった作品があるが、直に触れると生き様そのものが作品だと感じる。誰に頼まれたわけでもなく、自らをよすがとして立ち、周囲の人を巻き込み、そして何がしかの幸や福をまたその人たちに還元していく。翻って自身はどうだろう。今ここでこうしているとは、想像だにできなかった。それなのにここにいる。ここにいることも、ここにいる人にも意味があるのだと思う。一人で生まれ、またいずれ一人になる身。縁あった人と、知恵を出し合い皆さまに良きことを還元していきたい。(木戸敦子)

2018.2-3. vol.96 (2018年2月10日発行/隔月発行)

●発行・印刷/株式会社ミュージック・コーポレーション

喜怒哀楽書房

〒950-0801 新潟市東区津島屋7-29

TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550

0120-819-395 Facebookもチェック

e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com

郵便局口座番号00530-4-81370 口座名 株式会社 ミュージック・コーポレーション